

こども病院ひるば

編集 医療サービス・広報委員会 〒420-8660 静岡市葵区漆山 860 TEL : 054-247-6251(代表) FAX : 054-247-6259

重要なのは標準予防策

感染対策室・総合診療科 小児感染症科 荘司貴代

2018年より感染対策室長として、院内感染対策の責任者をしています。コロナ禍前はRSウイルス、インフルエンザ、ノロ、水痘といった市中感染症の院内感染で、病棟閉鎖や手術延期が課題となり、様々な対策を行ってきました。これらの経験がコロナ禍で小児高次医療を守る土台となっています。

2022年8月現在、第7波では医療施設や高齢者療養施設でのクラスターが相次ぎ、適切な対策をしても防ぎきれないことが分かってきました。

感染への不安から感染対策を追加してしまいがちですが、煩雑な対策は業務負担となります。綻びが出易く、効果が落ちます。効果が低く継続困難な対策は止める判断をしなければいけません。



感染対策7つの重点

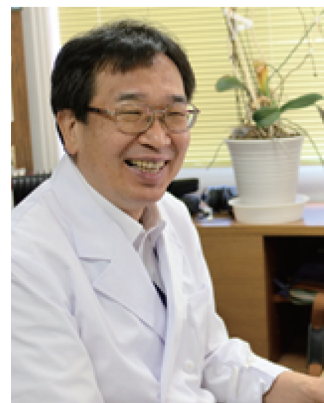
- 1、体調不良時は自宅待機をして、出勤をしない
- 2、アルコールで手指消毒をしてから診察、ケアをする
- 3、患者に感染症状の有無にかかわらず、標準予防策を行う
- 4、泣かせる処置時に眼の保護をする
- 5、接種可能なワクチンを確実に接種する
- 6、毎年、健康診断を受ける
- 7、薬剤耐性菌対策と抗菌薬の適正使用に努める

最も重要なのは標準予防策 (Standard Precaution) です。標準予防策とは、唾液、血液、吐物など体液を全て感染性があるとみなし、予防策を取ることです。1990年代にHIV/AIDSの発生と共に生まれ、世界の医療者の共通概念となり、医療者の職業感染はほぼ無くなりました。

ご存じの様に、HIV/AIDSの患者さんは感染後5-10年の長い潜伏期間は元気で、感染源となっていることにすら気がつきません。患者さん全てに診察前に検査していたら待ち時間は長く、医療費も膨らみます。救急では検査結果を待つ余裕のない方もいます。

成人の病院では入院時にPCRや面会制限が一般的です。こども達にとっては負担が大きすぎると考えています。乳幼児のPCR検体採取は痛みや恐怖を伴います。こども達の症状を家族によく観察して頂き、かぜ症状がある場合に予定入院を延期としています。保護者の面会に制限はしていません。こども達には保護者と一緒にいる権利があり、辛い治療を遂行するためにも、保護者の応援は必須です。標準予防策はコロナ禍でも医療者を守る重要な技術です。感染対策の負担を大きく増やすことなく通常の医療を継続するために必要です。

ITで新時代 新たな小児医療体制構築



院長 坂本喜三郎

「ひろば」をご覧ください、有難うございます。
本日は、小児医療におけるIT利用の可能性について、
当院の現状報告を含めてお伝えしたいと思います。

『小児医療におけるIT利用、デジタルトランスフォーメーションの意義』

日本の少子化は40年間止まらず、コロナで更に加速しました。日本が滅亡すると指摘したイーロン・マスク氏のコメントには賛同しかねますが、“極端な少子化は国の存亡に直結する一大事”であるという認識のもと、覚悟を決めて対策を推進すべき時だと思えます。

現在、“地理面積が変わらずに少子化が進行” = “小児人口密度が疎” & “小児領域医師数の減少” = “小児領域医師の適正配置が困難”という流れが止まらず、小児人口減少地区ではそれなりの総合病院でも小児科医、産科医を配置できなくなっています。この対策として人材ハブ病院からの医師派遣という選択肢がありますが、医師数の絶対的不足と働き方改革を踏まえると・・・“医療の質を担保できる、高画質画像、高品質情報を双方向共有できるオンライン医療支援・連携体制の確立”、“院内外を問わないIT利活用による業務効率改善”は必須です。

当院は今年、“必要な時に、迅速に対応できる高品質オンライン会議ができる体制”をほぼ確立させました。多くの皆様に上手く使っていただければ幸いです。

●オンライン診療中



事前問診システム



入力内容保存/確認

静岡東立こども病院オンライン問診票 ver1.5(20220208)

事前に"formzu.net"~"schvcv.net"からのメールが受信できるように設定をお願いいたします

1 情報入力 2 内容確認 3 完了

来院者の方あるいは同居家族について下記に回答をお願いします。

患者さんのお名前 **必須**

同一日に兄弟・家族で受診の際は1家族1回で結構です。

保護者のお名前 **必須**

診察券の患者番号 **必須**

初診の方は99999999を入力してください
ハイフンは不要です

メールアドレス **必須**

1) ~3) の段間に「はい★」または「症状にチェック」が入った方は入館前に看護師の指示に従ってください!

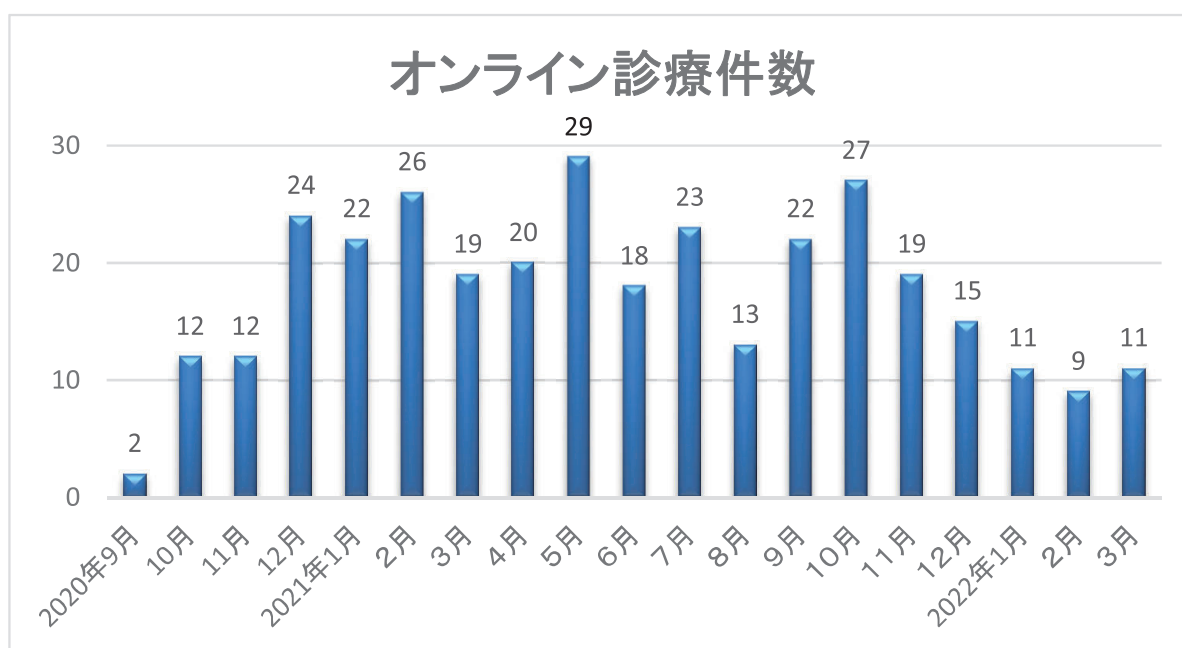
1) 来院日を含め、この1週間以内に37.5℃以上の発熱がありましたか? **必須**

はい★
 いいえ

『静岡県立こども病院における患者のためのIT利用』

当院がIT利活用推進可能な背景には、患児のご両親がスマホを中心としたIT機器に対応できるということがあります。コロナ対応が始まった2020年6月、半分でも使ってくれば・・・と『QRコードを利用した事前問診システム』を導入したところ、3ヶ月後には9割の方が外来入館チェックに必要な情報をスマホで送ってくれました。高齢者が中心の一般総合病院ではこうはいきません。

また、当院には“50kmを超える定期通院患者が多い”という特徴もあります。コロナ下で移動もままならず患者の不安が増大した2020年10月、いち早くオンライン外来（定期処方込み）診療を開始しました。実施時間帯を“こどもの幼稚園や学校に配慮し、午後3時以降に設定”したことも功を奏してか・・・多くの患者が利用してくれています。この取り組みは、オンライン診療のトップランナーとしてNHKでも報道されました。



静岡県立こども病院は、患者と家族、連携する医療関係者、そして職員のすべてに優しく使いやすい“IT技術の導入”で、皆様と一緒に、新時代の小児医療体制を作り上げていく所存です。今後も、ご指導、ご鞭撻、よろしくお願い申し上げます。

おまかせ下さい。小児麻酔！

麻酔科科長 奥山克巳

静岡県立こども病院では手術の全身麻酔ばかりではなく心臓カテーテルやMRIなど検査の麻酔を含め約3,000件の全身麻酔を行っています。

誰でも手術となれば不安になり、緊張します。小児では検査でさえ必要性が理解できず、我慢出来ないため鎮静が必要となります。ましてや手術では十分な理解も出来ません。不安や恐怖が有ると思います。不安や恐怖を減らし、手術を恐れないようにするための我々こども病院の麻酔科の取り組みを紹介します。

— 小児麻酔理念 —

泣かないで来て、泣かないで帰る

(怖がらずに手術室に来て手術後も痛みを感じない状態で親元に帰る)



不安を軽減する

手術前にCLS※ や手術室看護師から心電図や血圧計など身につけてもらうなどして、説明を受けます。

手術室は様々な機器や照明など通常の部屋と異なる環境です。手術前に一度手術室を見学し異空間への不安軽減に努めています。

また、当院にはファシリテイドックがいます。手術室まで同伴してもらい不安の軽減出来るように様々な方法を努めています。

乳幼児は手術・検査などの必要性が理解できません。鎮静薬を予め投与して母子分離に伴う不安や恐怖を取り除くようにしています。そのほか親と一緒に手術室に入り、ゲームをしながら麻酔導入をするなど、様々な方法で不安を軽減出来るように日々努力しています。

※ CLS: チャイルド・ライフ・スペシャリスト

爽やか目覚めと痛みのない覚醒

かつては小児に対する術後鎮痛は充分でなかったように思います。今後はすべての病院で、発達に応じた適切な疼痛評価を行い、適切な鎮痛を計るべきです。

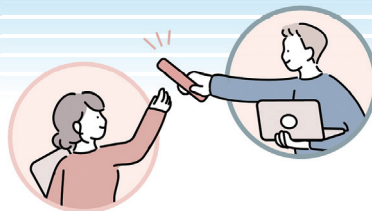
オピオイド・アセトアミノフェン・非ステロイド性抗炎症薬・デクスメドミジン・制吐剤などの薬剤特性を理解、更に区域麻酔などを積極的に併用、全身麻酔からの爽やかな覚醒と痛みのない状態を作ることを目標としています。

区域麻酔の併用

小児では硬膜外麻酔など区域麻酔を行う場合、全身麻酔を行ってから施行しなくなります。安全性への懸念がありましたが、2010年頃より安全性が示されて来ました。区域麻酔の併用により術後の鎮痛が得られ、満足度は向上しています。最近では超音波装置の併用により安全性は更に高まっています。

こども病院には、様々な患児がいます。複数回の手術・検査を受けなければならない児もいます。すべての児が辛い治療を無事受けられるように安全に全身麻酔を行うことは前提ですが、一回でも痛い思いやイヤな事があるとその後の診療が困難になります。辛い闘病中に痛い事やイヤな思いをしないよう、こどもの想いに沿った工夫をこれからもスタッフ一同考えていきたいと思えます。

図書室バトンタッチ



「こども病院の図書室です」と自己紹介すると、十中八九「こどもの本ですね」と云われます。

病院図書室は超マイナー職種、実は私も30年前に就職するまでその存在を知りませんでした。

1993年に医師・看護師向けの医学情報書から勉強を始め、3年後には「わくわくぶんこ」を開設、2004年には患者ご家族に医学図書室を開放し情報提供を開始しました。慢性疾患を持つ患児を支援するため正しい医学情報提供の必要性を強く感じ、公共図書館との連携にも力を注いできました。おかげ様で多くの良きご縁に恵まれました。



闘病している子は、今を生きています。大人なら将来を悲観するケースでも今、この瞬間を楽しむ力を持っています。そして成長してゆくのでしょう。それを垣間見るこの仕事は時につらく大変でしたが、非常にやりがいがありました。出会った多くの方々に深く感謝致します。

塚田薫代

今年4月に入職した勝谷ひろみと申します。前職は総合病院の図書室の司書として5年ほど、その他公共図書館や大学図書館で司書としての経験はありますが、患者図書室やわくわく文庫などの図書サービスは未経験です。小児に特化したこども病院は専門性があり、経験豊富な塚田様のようにはできませんが、先輩の細澤様と協力して司書業務を行い、ご迷惑をおかけしないよう努めてまいります。今年にはウクライナ紛争の影響で、為替相場の変動により、洋雑誌が高騰化し、来年度の契約に多大な影響を及ぼします。図書委員会の副委員長の大任を受けましたが、皆様方のご要望に沿えるよう、精一杯努めさせていただきますので、よろしくお願い申し上げます。



勝谷ひろみ

★ホームページ

様々な情報の発信や内容の充実につとめています。お知らせは定期的に更新しています。是非ご覧下さい。



こちらからアクセス →

静岡県立こども病院QRコード



編集後記

新型コロナ感染との闘いが3年目に入りました。闘いの中で世の中も大きく変わりました。今号の内容は、それをよく表していると思います。

編集室：河村秀樹、望月美貴子、野中幸子